

第15回 座の会展 座 2026

2026年8月22日(土) - 8月27日(木)

am 10:00 - pm 6:30 (最終日は pm 4:00 まで)

雑談 — 「座の会」15年の節目に

昨年9月、大阪の個展会場に羽田雄貴さんが家族と共に現れた。子供さんが一緒に嬉しく思ったのも束の間、雑談に花が咲き「座の会で、メンバーの子供の絵も一緒に展示できないか」と会に子供を巻き込むアイデアを羽田さんが口にした。そのアイデアは、同じく子供を持つ金子健一郎さんをはじめメンバーの間で徐々に膨らみ、今回香りをういたワークショップ“花と遊ぼう”へと展開した。

家族という身近で小さなコミュニティを眼差し、柔らかくプロジェクトに仕立てるのはいかにも座の会らしい。肩肘をはずす、いつもこんなふうメンバー同士の会話からアイデアを拾い実験を繰り返してきた。雑談は笑いに引き消されるが、そこから生まれた企画は丁寧に練られ、仕掛けられ、あるいは静かに座の胎内で実現の時を待つ。

そういえば毎年座の会は大崎の盆踊りと会期が重なる。だったら美術館で踊ってしまおうと誰かが言った。踊るなんて! 15年の節目にぴったりではないか。

亀井三千代(座の会メンバー)

8/22 オープニングトーク「15回展記念 座の会の歩み」14:00～16:00

参加費
無料

(土) オープニングパーティー「酒の座」

16:30～18:00

8/23 ワークショップ 花と遊ぼう ～香りを描き踊ってみよう～

(日) ①13:00～ ②14:00～ ③15:00～ (各40分程度)

参加費：中学生まで無料 /
一般1人¥1,000(当日申込可能)

小学生以下は保護者同伴をお願いします

この夏、生花を使った絵と踊りのワークショップを開催いたします。美術館で出品作家と一緒に和紙で花びらを作り、そこに花の香りのイメージを描き、味わう体験をしてみませんか。

座の会メンバーであり舞踏家の加賀谷早苗は「花と香りが空間に満ちると、自然と踊りが生まれる」と語ります。五感をひらき、花と香り、そして身体が響き合うひとときを一緒に楽しみましょう。

*描いた「花びら画」は座の会の会期中O美術館に展示します。お持ち帰りもできますのでご相談ください。

予約問い合わせ先：zanokai.workshop@gmail.com 加賀谷早苗 *件名「座の会ワークショップ」にて送信して下さい。

第15回 座の会展 座 2026



8月22日(土) - 8月27日(木)

am 10:00 - pm 6:30 (最終日は pm 4:00 まで)

○美術館

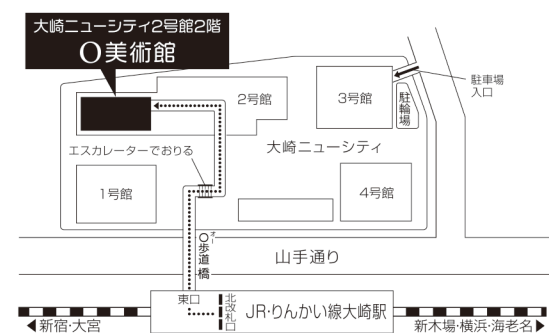
最新の情報は以下のURL、または
QRコードのページに掲載しております。
ご来館前に一度ご確認ください。
<https://www.facebook.com/ZaNoKai>



○美術館

東京都品川区大崎1-6-2大崎ニューシティ・2号2F
Tel:03(3495)4040
FAX:03(3495)4192

[問い合わせ先]
「座の会」事務局
〒177-0044
東京都練馬区上石神井2-19-17
第二正良マンション202
Tel/FAX 03(3594)0756 藤田一人方





井坂健一郎

「風が変えたものたち-2613」
東京藝術大学・筑波大学大学院修士課程、博士課程に学び、現在、国立大学法人山梨大学大学院 教授。山梨県立美術館、伊勢丹新宿店、銀座三越、ギャラリー上田等での個展の他、出展多数。著書の出版や展覧会の監修も手掛けている。



いらはらみつみ

「光陰」
1972年生
1999 東京藝術大学大学院美術研究科漆芸専攻 修了
2022-24-26 グループ展 京王プラザホテル ロビーG
2023~26 世界漆文化会議展 のばな銀座
2026 パリ2人展 Galerie Satellite



大西長利

「ワン・ツー・スリー」
1933 山口県下関市生まれ
1959 東京藝術大学美術学部卒業
1984 世界漆文化会議設立・議長就任。同年ライフワークとなる「アジア漆文化源流調査」を開始。
1985 文部省在外研究員として英国の現代工芸調査研究。
1989 東京藝術大学漆芸科教授
1998 願船漆工房開設
2001 東京藝術大学名誉教授



海東祐子

「刻」
1985 茨城県生まれ
2015 女子美術大学芸術学部美術学科 日本画専攻 卒業
2023 「はんすう展」
ART&CAFE+BARあ・い・う。
2025 「blancーその先の日本画ー」(鋸山美術館) 他、グループ展



加賀谷早苗

「ヒルザキソキミサウノキオク」
東京藝術大学美術学部工芸科漆芸専攻 卒業。
在学中より舞台芸術を足場に活動。漆と身体表現を融合。舞踏家、舞踏団・友恵しづねと白桃房メンバーとして公演多数。本年は座の会ワークショップ担当。ぜひご参加下さい！



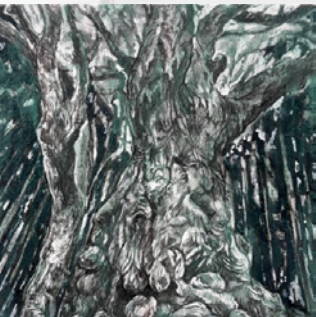
金子健一郎

「Mirror Wormhole (時空を繋ぐ鏡)」
2011 第47回神奈川県美術展県議会議長賞
2020 第9回Artist Group風大作公募展
2025 日本画塾展茅ヶ崎美術館 個展
2026 9月PHANTOM PAIN幻肢痛K's Gallery



亀井三千代

「抱擁」
慶應義塾大学哲学科美学美術史学専攻卒
東京科学大学医学部臨床解剖学講座専攻
日本水墨画大賞展 2015・準大賞
東京、大阪、パリで個展開催
2026,10/16-18 大橋可也&ダンサーズとのコラボレーション(シアターバピロンの流れのほとりにて)
2026,10/17-31 グループ展(マリーギャラリー/東京)



小林努

「神樹巡礼」
1974 長野県生まれ
1998 武蔵野美術大学造形学部日本画学科卒業
2000 筑波大学芸術研究科美術専攻修了
公募展、個展、グループ展等多数出品
2012年頃より再生・救済をテーマに墨を使用した大型の連作を手がける。
現在YouTube「信州水彩紀行」配信中



古伏協司

「くま 2026-2」
1961年生まれ 東京藝術大学で漆芸を学び、乾漆立体作品を個展等で発表。
近年の作品展示 Urushi Now (2026/4/30～2027/4/30 V&A Museum London)



鈴木敬三

「man」
1959 愛知県生まれ
1982 大阪芸術大学美術学科卒業
2001「墨画トリエンナーレ富山」最優秀賞受賞
2004「現代の水墨画 2004」招待
2008「豊橋トリエンナーレ・星野真吾賞展」入選以降 6 回連続入選
他、国内外にて、個展、グループ展など多数。



高田研二郎

「vine」
1985 生まれ
2011 武蔵野美術大学大学院日本画コース修了
中之条ビエンナーレ2015、2019出展
2017 パークホテル東京 ART COLORS Vol.21
2021 shumiya art window vol.15 高田研二郎 展
「Potalaka」(朱宮神佛具店)
2023「かたちをおいける」
(オルタナティブ掘っ立て小屋 ナミイタ)
他、個展、グループ展多数



豊田マサ秋

「雨音花」
1991 東京芸術大学大学院美術研究科漆芸専攻 修了
1993 個展 西瓜糖
2023 FIDEMイタリア展出品
2024 k'spconcept2人展 京王プラザホテル ロビーギャラリー
2025 FIDEMドイツ展 出品
2026 のばなArt Wor (作家の視点)



西野正望

「記憶の沁み～花景・臍脂」
1996 東京藝術大学大学院博士課程満期退学～
1999年まで日本画科非常勤講師助手。グループ展、個展多数。10 月広島三越画廊個展。
時間とは？記憶とは何か？『時』と『間』を、流れる時間の概念だけではない、俯瞰された多元的に重なる世界をタイムミルフィーユという概念を用いて様々なアプローチで問いかけ、『記憶の沁み』の曼荼羅景を描いている。



羽田雄貴

「見慣れた水」
1986 愛知県生まれ
2011 武蔵野美術大学大学院修了
2012 座の会(O美術館他ー26)
2019 個展 (トキ・アーツスペース)
2022 個展 (朱宮神佛具点) など



広田郁世

「Blowing In The Wind」
大阪芸術大学日本画専攻科修了
平成元年度文化庁国内研修員
第5回東山魁夷記念日経日本画大賞展
和楽器と影絵KAGEN (影絵原画、操演) のメンバーとして各地で公演
絵本「戦争を読む・平和を考える19450806 星は見ている」挿絵制作
富山県射水市在住



藤田一人

「バタフライ・エフェクト」
1960年大阪生まれ。1985年東京藝術大学芸術学科卒業。美術ジャーナリスト、美術評論家。新聞、雑誌で美術批評、美術界ドキュメントを執筆。“いま”を表現することを心掛けています。今回のテーマは「幸も不幸も、世界は繋がっている」。



藤原宇希子

「黒出目金」
1990 千葉県生まれ
女子美術大学大学院博士後期課程満期修了
石本正日本画大賞展 大賞
2026 個展 伊勢丹新宿・広島三越
他グループ展・アートフェア等多数
創画会会友



馬籠伸郎

「吸9」
1976年東京生まれ。多摩美術大学大学院日本画専攻修了。河童をはじめ妖怪や龍を題材に、時折社会風刺も織り交ぜて表現。パークホテル東京「妖怪ルーム」制作をはじめ、日米欧・アジアなど国内外で作品を発表。



宮島弘道

「うし」
1970年生まれ。1994年武蔵野美術大学大学院美術専攻日本画コース修了。現在は自然物をモチーフに、日本画と岩絵具の新たな可能性を追求。個展・グループ展等に多数出品。
創画会会員 女子美術大学教授



山田宴三

「不在の花」
現在をテーマにして、主語を必要としない日本語の世界観あるいは『中動態』、ベンジャミンリベットが明らかにした『無意識』、『仏教哲学』、『量子論』、『非線形』などの神秘主義的世界観、『自然』、『リアルなもの』を信仰の対象として、絵画を通じて賛美したいと願っています。